千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第21週（5/20-5/26）の発生は？

1　定点報告対象疾患（五類感染症）

報告のあった定点数		21週	20週	19週	18週
	小児科	18	17	18	18
	眼科	5	5	5	5
	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	28	27	28	26
	基幹定点	1	1	1	1

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市 注意報	千葉市 5/20-5/26 21週	千葉市 5/13-5/19 20週	千葉市 5/6-5/12 19週	千葉市 4/29-5/5 18週	千葉県 5/13-5/19 20週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.06	0 0.00	2 0.11	0 0.00	20 0.15
	咽頭結膜熱	○	15 0.83	8 0.47	14 0.78	1 0.06	37 0.28
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		51 2.83	61 3.59	55 3.06	15 0.83	476 3.55
	感染性胃腸炎		126 7.00	107 6.29	75 4.17	19 1.06	653 4.87
	水痘		8 0.44	5 0.29	4 0.22	2 0.11	48 0.36
	手足口病		6 0.33	2 0.12	0 0.00	0 0.00	33 0.25
	伝染性紅斑	○	22 1.22	16 0.94	10 0.56	0 0.00	143 1.07
	突発性発しん		11 0.61	5 0.29	12 0.67	1 0.06	46 0.34
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	2 0.11	0 0.00	17 0.13
	流行性耳下腺炎		2 0.11	4 0.24	3 0.17	0 0.00	15 0.11
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）		13 0.46	17 0.63	9 0.32	4 0.15	160 0.75
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		2 0.40	0 0.00	1 0.20	0 0.00	22 0.63
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2　全数報告対象疾患（11件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	男性	30歳代	IGRA検査	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等
結核	男性	40歳代	IGRA検査	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等
結核	女性	20歳代	病原体遺伝子の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	50歳代	病原体の分離･同定
結核	女性	50歳代	IGRA検査	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
結核	女性	70歳代	病原体等の検出	麻しん	女性	30歳代	病原体遺伝子の検出等
結核	女性	80歳代	病原体の検出等	－	－	－	－

・第21週は、　結核6件（78）、急性脳炎2件（6）、侵襲性肺炎球菌感染症1件（8）、百日咳1件（40）、麻しん1件（2）の報告があった。

※　（）内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

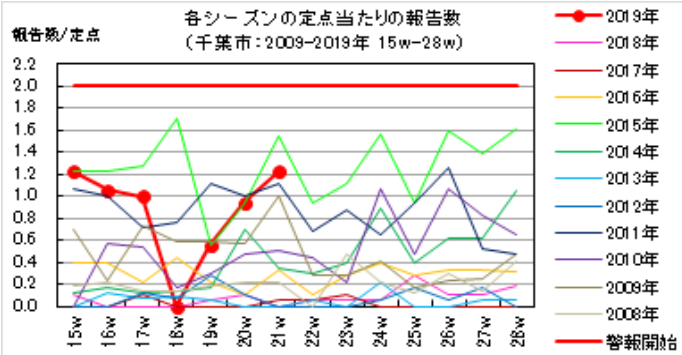
定点当たり報告数　第21週のコメント

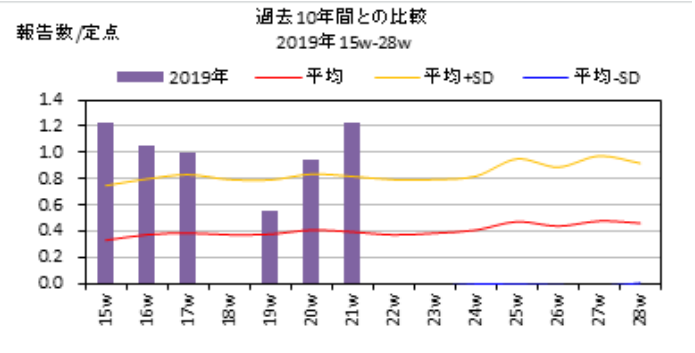
＜**咽頭結膜熱**＞前週より増加し0.83となった。過去10年の同時期と比べると非常に多い。
＜**伝染性紅斑**＞前週より更に増加し1.22となった。過去10年の同時期と比べるととても多い。

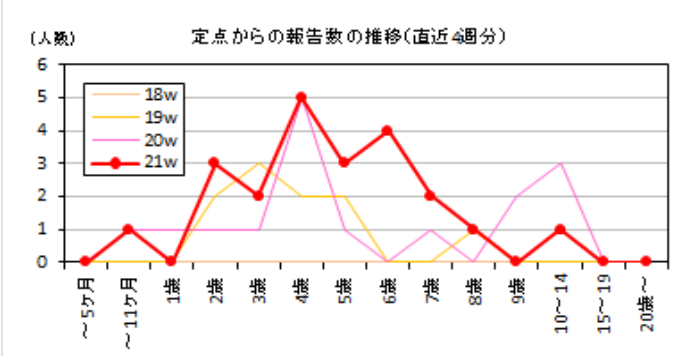
■ トピック ■

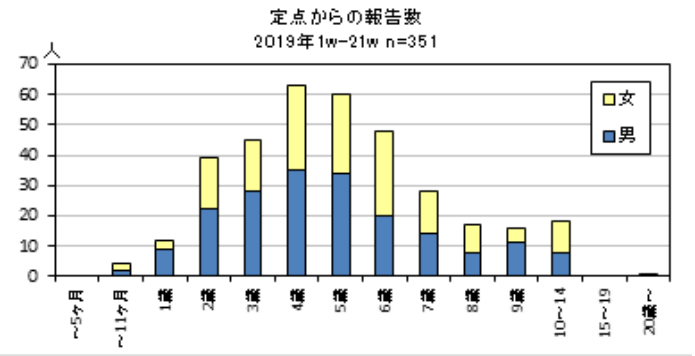
＜伝染性紅斑＞

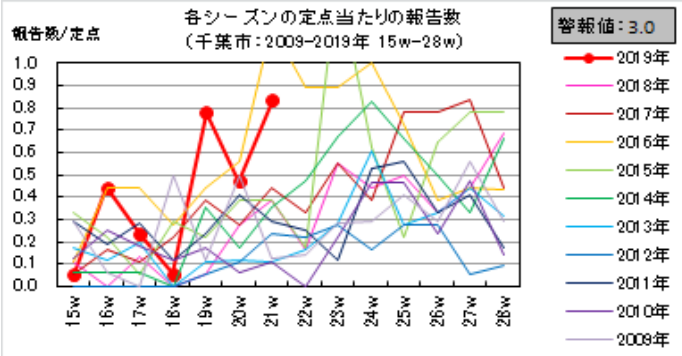
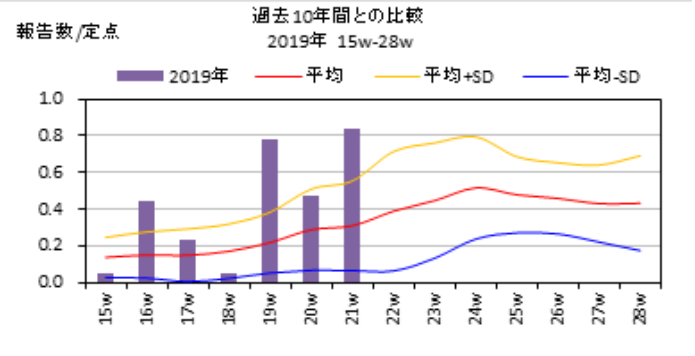
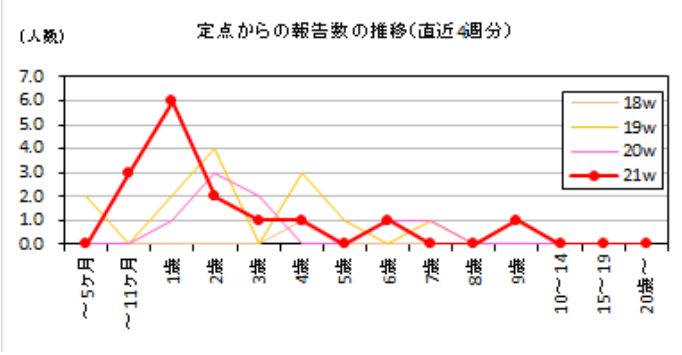
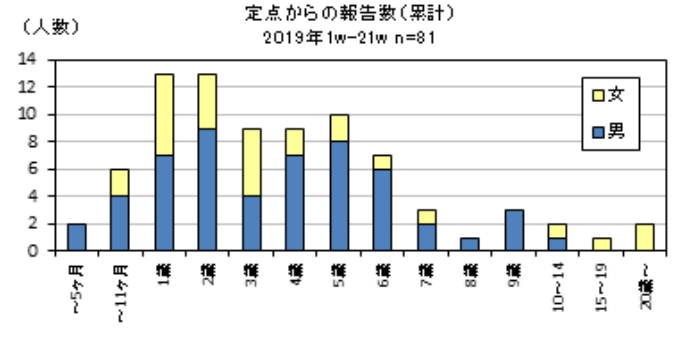
全国レベルの第20週の定点当たりの報告数は0.91で、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、富山県、新潟県、石川県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は1.07で、全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第21週は前週より更に増加し1.22となり、過去10年の同時期と比べるととても多くなっています。区別の発生状況は、花見川区（2.5/定点）で流行発生警報開始基準値（2.0/定点）を上回り最も多く、同区の2歳、3歳、5歳、8歳及び10歳代前半で発生報告がありました。2019年第1週から第21週までの累積報告数は351件で、性別では男性が54.4%（191名）、女性が45.6%（160名）となっており、年齢階級別では4歳（17.9%：63名）、5歳（17.1%：60名）、6歳（13.7%：48名）の順で多くなっています。









＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの第20週の定点当たりの報告数は0.42で、過去10年の同時期と比べると少なめとなっています。都道府県別では、鹿児島県、佐賀県、新潟県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.28で、全国レベルと比べると少なめとなっています。千葉市の第21週は前週より増加し0.83となり、過去10年の同時期と比べると非常に多くなっています。区別の発生状況は、花見川区及び若葉区（共に1.5/定点）で最も多く、花見川区で6か月～2歳、若葉区で6か月～1歳及び6歳で発生報告がありました。2019年第1週から第21週までの累積報告数は81件で、性別では男性が66.7%（54名）、女性が33.3%（27名）となっており、年齢階級別では1歳及び2歳（共に16.0%：13名）、5歳（12.3%：10名）の順で多くなっています。